

特集

地盤工学会基準と国際標準

Japanese Geotechnical Society Standards and International Standards

●編集委員長：西村 強 副委員長：鈴木健一郎

●企画・編集グループ：福永 勇介 (主査)

●本号特集担当編集委員：森 友宏 (主査)

井上波彦 今泉和俊 小林陵平 中村公一 古川全太郎

檜垣貫司 佐々木泰典 牛塚太基 石川光甫

●講座委員長：若井明彦 委員兼幹事：中村邦彦・伊藤竜記

本号の編集にあたって

昨今、我が国建設業の海外建設事業の受注高は、東南アジア諸国を中心とした旺盛なインフラ整備による市場拡大を背景に、高水準で推移しています。海外建設事業を進める上では、海外特有の様々なリスクを考慮し、更には、その国の独自、あるいは標準と定める基準・規格に準拠する必要があります。一方で、国際社会における基準・規格は、ISO（国際標準化規格）、Eurocode（欧州規格）などが広く普及しており、国内基準に慣れた日本企業の中には、戸惑いが生じることもあります。国内基準・規格の国際標準化は、グローバル市場への進出のしやすさに繋がります。

これを受けて、昨年にはJIS法を改正するなど、国家基準であるJISの国際標準化を促進しています。地盤工学会としても、室内土質試験や地盤調査に関する基準が策定されている中で、国際的な視点からニーズを見極め、国際標準化に向けた様々な取り組みが進められています。学会が長年に渡って培ってきた経験や高い技術力を世界に発信し、今後世界に貢献し続けていくためにも、引き続き学会基準の整備を実施し、国際標準化に向けた戦略的な取り組みが必要不可欠かと思えます。

以上の背景を踏まえ、本号では「地盤工学会基準と国際標準」と題して、特集をいたしました。

総説では、地盤工学に関わる技術基準・規格の現状と課題、今後の展望や地盤工学会基準と国際標準をめぐる動向について詳説して頂きました。論説及び報告では、地盤工学会基準である「地盤材料試験の方法と解説」、「地盤調査の方法と解説」に関する現状と今後の動向やISO活動に関する執筆をはじめ、ジオシンセティックスと地盤改良に関わる国内外の基準の紹介、学会基準の英訳化と地盤工学用語の制定に関する報告についても、執筆して頂きました。

本特集号が、読者の皆様にとって有益なものになることを願っております。

小林陵平 (こばやし りょうへい)

地盤工学会のホームページ URL <https://www.jiban.or.jp/>

国際地盤工学会ホームページ <http://www.issmge.org/>

CONTENTS

2019
2

地盤工学会誌

Vol.67 No.2 Ser.No.733

土と基礎

特集テーマ：地盤工学会基準と国際標準

総説	地盤工学会基準と国際標準 1 ●堀越 研一
論説	地盤工学会における ISO 活動の変遷 6 ●浅田 素之/木幡 行宏
	地盤材料試験の方法と解説に関する現状と今後の動向10 ●豊田 浩史/木幡 行宏
	地盤調査の方法と解説に関する現状と今後の動向14 ●末政 直晃/武政 学
	化学試験規格・基準の改訂と地盤環境分野への展開18 ●肴倉 宏史/三浦 俊彦/乾 徹
	建築基礎分野における地盤調査と基準22 ●藤井 衛
報告	国内外におけるジオシンセティックスに関わる規格の動向26 ●平川 大貴/椋木 俊文/篠田 昌弘/木幡 行宏
	地盤改良に関わる国内外の基準とその適用性28 ●野津 光夫/今井 優輝
	地盤工学会基準の英訳化30 ●竹下 祐二
	地盤工学用語（JIS A 0207：2018）制定の経緯31 ●伊貝 聡司/大島 昭彦
技術紹介	自走式バイプロドリルマシンで設置可能な打ち込み式注入管の開発32 ●高畑 陽/藤原 斉郁/石井 裕泰/松井 秀岳
寄稿	小孔径対応型地下水流向流速計の開発34 ●河原 駿/後藤 和幸
寄稿 (学生編集委員)	秋田自動車道横手北スマートインターチェンジの建設事業36 ●石川 光甫
学会の動き (国際活動から)	第 8 回環境地盤工学国際会議（8ICEG）が中国杭州で開催される38 ●高井 敦史/藤川 拓朗

複写をされる方へ

地盤工学会は下記協会に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、同協会より許諾を受けて下さい。但し（公社）日本複製権センター（同協会より権利を再委託）と包括複写許諾契約を締結されている企業等法人による社内利用目的の複写はその必要はありません（社外頒布用の複写は許諾が必要です）。

権利委託先：一般社団法人 学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3F

FAX：(03)3475-5619 E-mail：info@jaacc.jp

なお、複写以外の許諾（著作権の引用、転載、翻訳等）に関しては、（一社）学術著作権協会に委託しておりません。直接、地盤工学会（連絡先は本文最終ページに記載）へご連絡下さい。

アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡して下さい。

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA

Phone: 1-978-750-8400 FAX: 1-978-646-8600

技術手帳	破壊力学の観点から見た地盤の破壊現象40
	●矢富 盟祥/新保 泰輝
講座	液状化調査手法としてのサウンディング技術
	3. 回転貫入試験42
	●末政 直晃/田中 剛/菅野 安男
	耐震設計指針の考え方と地盤及び土構造物への適用方法
	6. 液状化地盤の評価50
	●渦岡 良介/石原 雅規
	新入会員58
	書籍紹介59
	編集後記60

CONTENTS

2019
2

Geotechnical Engineering Magazine

Vol.67 No.2 Ser.No.733

The Japanese Geotechnical Society

Editor-in-chief

Tsuyoshi Nishimura

Akihiko Wakai

Associate Editor

Ken-ichiro Suzuki

Project Editor

Yusuke Fukunaga

Issue Editor-in-chief

Tomohiro Mori

Editors

Namihiko Inoue, Kazutoshi Imaizumi,

Ryohei Kobayashi, Koichi Nakamura,

Zentaro Furukawa, Kanji Higaki,

Yasunori Sasaki, Taiki Ushitsuka,

Kosuke Ishikawa

Theme: Japanese Geotechnical Society Standards and International Standards

Japanese Geotechnical Society Standard and International Standardization	1
● Kenichi Horikoshi	
ISO Activities in JGS in 20 Years	6
● Motoyuki Asada and Yukihiro Kohata	
Status Report and Perspective Concerning the Japanese Standards and Explanations of Laboratory Tests of Geomaterials	10
● Hirofumi Toyota and Yukihiro Kohata	
JGS on Geotechnical Investigation: Current Status and Forecast to the Future	14
● Naoaki Suemasa and Manabu Takemasa	
Revision of Test Methods for Chemical Properties of Soils and Application in Geoenvironmental Field	18
● Hirofumi Sakanakura, Toshihiko Miura and Toru Inui	
Soil Investigation and Standards in Building Foundation Field	22
● Mamoru Fujii	
A Current Report of Standardization on Geosynthetics in Domestic and Overseas	26
● Daiki Hirakawa, Toshihumi Mukunoki, Masahiro Shinoda and Yukihiro Kohata	
Domestic/Oversea Standards for Ground Improvement and Its Application	28
● Mitsuo Nozu and Yuki Imai	
English Translation of Japanese Geotechnical Society Standards	30
● Yuji Takeshita	
History to Establish JIS A 0207: 2018 “Technical Terms for Geotechnical Engineering”	31
● Satoshi Ikai and Akihiko Oshima	